

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人ABCジャパン

1. 事業の概要

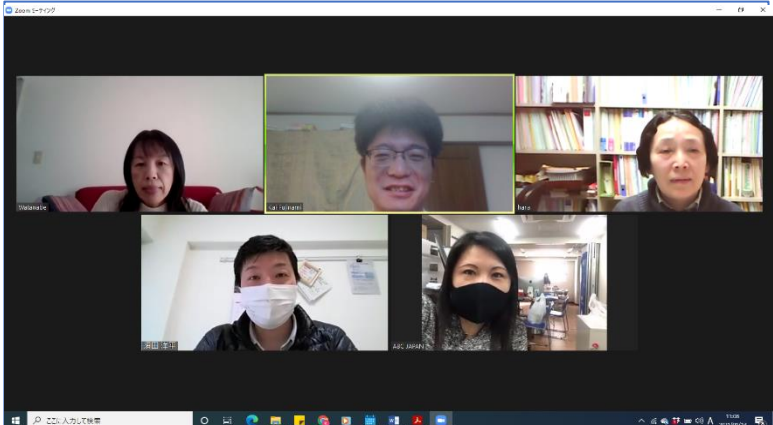
事業名称	オンラインサポート付き授業を活用した日本語学習支援事業
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	長年地域内に住んでいる者も多いが、仕事を優先し、日本語を体系的に学ぶ機会が少なく、日本語レベルは総じて低い。そのために地域社会のコミュニティに溶け込めない、安定した仕事に就けない、子どもの教育に十分に関われない等の悩みを持つ外国人市民も少なくない。彼らが市民としての社会福祉を十分に活用するために必要な日本語能力の育成を図る必要がある。課題は、日本語学校や個人レッスンは受講料が高く学ぶ機会としては難しい。また、オンライン実施をせざるを得ない現状の中、自宅にパソコンがない人は参加できない、携帯電話では画面が小さく受講が大変、さらに、一人で勉強できる工夫が必要、等がある。
事業の目的	外国人の多くが非正規雇用に従事し、長時間労働のため、日本語学習の希望を持ちながら教室に通って勉強する時間が取れない外国人市民のために、対面式の授業だけでなく、学習者の生活スタイルに合わせて学習を続けられるオンラインサポート付きの日本語教室を実施する。授業では外国人市民が必要とし、普段から関心を持っているテーマを取り上げ、地域で活動する方々を講師として招き、外国人が安心して生活し、地域住民としての意識を高め、積極的に社会参画していけるようにする。 地域住民を対象としたシンポジウムを開催し、地域に生活する外国人市民の現状と抱えている困難さ、日本語習得の大切さについて発信し、多文化共生社会に向けた取り組みについての理解を促進する。 日本語講師や補助者、コーディネーターが、外国人市民が地域で自立して生活していけるように日本語指導や生活支援の面でより良いサポートを行うために、各分野の専門家を講師に招き、実践的な研修を行う。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	①学習者の生活スタイルに合わせたオンラインサポート付き日本語教室 ②日本語教育シンポジウム～地域社会での取り組みと多文化共生社会 ③地域日本語教室における指導者・コーディネーターのための研修 定住外国人を取り巻く環境は厳しく、圧倒的な情報不足の状態に置かれている人も多いため、彼らの生活の質を向上させ、自立を後押しできるよう、日常生活の様々なテーマを取り上げた日本語教室を開催し、実践的な日本語力がつけられるように、また、問題解決につなげる力を外国人自らが身につけることは、多文化共生社会の実現に向けて必要なステップである。定住外国人がより安心して生活を送れるように、本事業を実施した。 実施後には受講者から「外出できないので、オンライン教室を受けられてよかった。」、「実際に日常生活で使える日本語を学べた。」、「教室で学んだ日本語を職場で使ったら通じた。」、「自分の住所を全部漢字で書けた。」、「病院に電話をして予約できた。」等の声が挙がった。当事業のオンラインサポート付き日本語教室で学んだ日本語を活用し、生活や地域社会の中で、受講者の生活の質の向上に繋がっていることが確認できた。
事業の実施期間	令和 2年 5月 ～ 令和 3年 3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	安富祖 美智江	特定非営利活動法人ABCジャパン・理事長
2	渡辺 裕美子	特定非営利活動法人ABCジャパン・コーディネーター
3	原 千代子	社会福祉法人青丘社・理事
4	須田 洋平	特定非営利活動法人サードプレイス・理事長
5	田村 梨花	上智大学・教授
6	藤浪 海	フェリス学院大学・研究員
7		
8		
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年5月 15日(木) 10:00～12:00	2時間	オンライン	安富祖・渡辺・藤浪 原・須田・田村	5月：日本語教室の運営とカリキュラムについて
2	令和2年9月 11日(金) 10:00～12:00	2時間	オンライン	安富祖・渡辺・藤浪 原・須田・田村	9月：研修・シンポジウムの企画について
3	令和2年11月 12日(木) 10:00～12:00	2時間	オンライン	安富祖・渡辺・藤浪 原・須田・田村	11月：シンポジウムの運営について
4	令和3年3月10 日(水) 10:00～12:00	2時間	オンライン	安富祖・渡辺・藤浪 原・須田・田村	3月：年度末の総括

(2) 地域における関係機関・団体
等との連携・協力

連携体制	運営委員会のメンバーに在住外国人や家族・子どもへの支援を地域包括的に実施している川崎と鶴見の団体から参加してもらうことで、より地域に根ざした形での教室運営やカリキュラムづくり、シンポジウムや研修の企画づくりを実施することができた。さらに、以前から連携して地域の外国人市民の支援活動を行ってきた鶴見国際交流ラウンジや鶴見図書館、地区センター等へも、本事業への参加・協力を呼びかけ、地域住民の方たちに同じ地域に暮らす外国人への日本語教育の重要性について理解を深めてもらうことができた。こうした連携体制を元に外国人市民が地域コミュニティに溶け込めるような基盤づくりを進めることができた。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業
の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーのブラジル人コーディネーターは、長年にわたる多言語での相談対応の実績があり、地域の外国人コミュニティとの結びつきを活かし、また当事者としての立場から、全体事業の企画面を中心に担っている。日本語教育コーディネーターは、これまでに築いた行政や地域の他団体との協力関係と日本語教育の経験を活かして、実際の取組や運営委員会をコーディネートしている。 取組1では、海外・日本での外国人学習者への日本語指導経験が豊富で、オンライン教室での長年の指導実績がある日本語講師が主担当となって実践的な日本語教室を展開した。取組2、3についてはそれぞれの分野の専門家を招き、シンポジウム、研修を実施することができた。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞【実施期間:令和 2年 5月 19日～令和 3年 3月 16日】											
取組の名称		学習者の生活スタイルに合わせたオンラインサポート付き日本語教室									
取組の目標		外国人市民の状況に対応するため、学習者のニーズに合わせて対面・オンライン・添削など様々なスタイルの日本語教室を提供する。対面授業では、月2回だけの教室では学習内容が定着しにくいと、教室で学習した内容をアウトプットできるようにするための一つの手段としてオンラインサポートを行う。それによってクラスの学習者のレベルを合わせることで、教室内での授業がよりスムーズに進められるようになることが望める。オンライン授業では、定着のために添削指導も行う。									
取組の内容		グループ①「対面授業＋マンツーマンのオンラインサポート」、グループ②「グループのオンライン授業＋添削」をそれぞれ取り組む予定だったが、感染症対策のため、グループ①についてもオンライン授業で実施した。平日は1回2～3時間で授業を行い、週末は1回2.5～4時間で復習を中心に学習を進めた。学習内容は、生活の様々な場面で必要なテーマとして、買い物を、銀行やATMを利用する、病院の予約、飲食店での注文のほか、仕事に必要な言葉や状況に応じたやりとりと、それに必要な語彙や文章、文法、また、規則や禁止事項、義務や必要性があることを述べるなど、あらゆる場面で使われる表現なども行った。他には、日本語学習のコツやアドバイスについても時間を設けた。授業内で、実際に声に出しながら学習を進め、宿題も実施し日本語の定着を促した。									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		当団体が連携して活動している地域NPO法人の理事長や保育園園長等を講師に招いて、地域社会・日常生活のルールや行政のサービス、仕事で使われる日本語やマナー等について学ぶ予定だったが、緊急事態宣言発令と感染症感染拡大防止のため、行うことができなかった。しかし、その時間をロールプレイによる授業や、復習を行う時間を設け授業内容について丁寧に実施した。									
取組による日本語能力の向上		仕事の場面や、病院、買い物、防災、子育てなど、外国人市民にとって生活をする上で必要性の高いテーマを取り上げて実施した。									
参加対象者		地域在住の外国人住民					参加者数 (内 外国人数)		34人(34人)		
広報及び募集方法		当団体ホームページ、SNSを利用して、広報及び募集を実施した。									
開催時間数		総時間 252時間（空白地域 時間）					内訳 オンライン教室 3時間×4回／2時間×78回 オンライン復習教室 2.5時間×1回／3時間×11回／4時間×1回／4.5時間×5回／5時間×4回 オンライン体験談 1時間×2回				
主な連携・協働先		緊急事態宣言発令と感染症感染拡大防止のため、すべてオンラインでの実施に変更のため、連携なし。									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
			23		1			6	4		34
※該当する場合のみ											

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年5月19日(火) 18:30~21:30	3	オンライン	18	長音、促音、拗音	面接、ひらがな語彙の長音、促音、拗音の確認。挨拶や自己紹介の練習。	横江美智子	具志堅タミー
2	令和2年5月19日(火) 18:30~21:30	3	オンライン	16	仕事	面接、仕事に関する語彙の確認、発表。	岡田亜子	山内愛樹
3	令和2年5月22日(金) 18:30~21:30	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
4	令和2年5月26日(火) 18:30~20:30	3	オンライン	17	長音、促音、拗音、	面接、ひらがな語彙の長音、促音、拗音の確認。挨拶や自己紹介の練習。	横江美智子	具志堅タミー
5	令和2年5月26日(火) 18:30~20:30	3	オンライン	16	仕事	面接、仕事に関する語彙の確認、発表。	長音	山内愛樹
6	令和2年5月29日(金) 18:30~20:30	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
7	令和2年6月2日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	会話「これは・それは」	「これは・それは」の使い分けの練習。	横江美智子	具志堅タミー
8	令和2年6月2日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	作文、日常生活で使う言葉	作文、日常生活で使う言葉の確認。	岡田亜子	山内愛樹
9	令和2年6月9日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	会話「これは・それは」	「これは・それは」の使い分けの練習。	横江美智子	具志堅タミー
10	令和2年6月9日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	14	作文、日常生活で使う言葉	作文、日常生活で使う言葉の確認。	岡田亜子	山内愛樹
11	令和2年6月16日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	家族の呼び方	家族の呼び方について。	横江美智子	具志堅タミー
12	令和2年6月16日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	会話「～をします」「洋服を買います」	イラスト、語彙を見せた上で、「～をします」の文作り。さまざまな服の名称と「着る・はく・かぶる・する」を組み合わせた文作り。	岡田亜子	山内愛樹
13	令和2年6月23日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	家族の呼び方	家族の呼び方について。	横江美智子	具志堅タミー
14	令和2年6月23日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	会話「～をします」「洋服を買います」	イラスト、語彙を見せた上で、「～をします」の文作り。さまざまな服の名称と「着る・はく・かぶる・する」を組み合わせた文作り。	岡田亜子	山内愛樹
15	令和2年6月26日(金) 17:00~20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
16	令和2年6月27日(土) 9:30~12:00/18:00~20:00	4.5	オンライン	9		復習	横江美智子	
17	令和2年6月30日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	漢字練習	漢字練習、音読	横江美智子	具志堅タミー
18	令和2年6月30日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	敬語、支払方法、ニュース	店員がよく使う敬語の意味の説明。支払方法の練習。ニュースでよく聞く言葉の説明。	岡田亜子	山内愛樹

19	令和2年7月7日 (火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	漢字練習	漢字練習、音読	横江美智子	具志堅タミー
20	令和2年7月7日 (火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	敬語、支払 方法、ニュー ス	店員がよく使う敬語の意味 の説明。支払方法の練 習。ニュースでよく聞く言葉 の説明。	岡田亜 子	山内愛樹
21	令和2年7月14 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	日常会話、 「よく、少し、 だいたい、 ぜんぜん」	「よく、少し、だいたい、ぜ んぜん」を使った会話の練 習。	横江美 智子	具志堅タミー
22	令和2年7月14 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	お金の支払 い	お金を払う際のトラブル 等、語彙の確認。	岡田亜 子	山内愛樹
23	令和2年7月21 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	日常会話、 「よく、少し、 だいたい、 ぜんぜん」	「よく、少し、だいたい、ぜ んぜん」を使った会話の練 習。	横江美 智子	具志堅タミー
24	令和2年7月21 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	14	病院	病院の予約電話のロール プレイング。	岡田亜 子	山内愛樹
25	令和2年7月25 日(土) 9:30~12: 00/18:00 ~ 20:00	4.5	オンライン	9		復習	横江美 智子	
26	令和2年7月28 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	会話練習、 「ええ、～」	今まで学習した文法でのミ ニ会話の練習。「ええ、～」 のイントネーションの確 認。	横江美 智子	具志堅タミー
27	令和2年7月28 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	誘いの断り 方	相手に不愉快な思いをさせ ない誘いの断り方。	岡田亜 子	山内愛樹
28	令和2年7月31 日(金) 17:00~20:00	3	オンライン	6		復習	横江美 智子	
29	令和2年8月4日 (火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	会話練習、 「ええ、～」	今まで学習した文法でのミ ニ会話の練習。「ええ、～」 のイントネーションの確 認。	横江美 智子	具志堅タミー
30	令和2年8月4日 (火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	病院	病院の予約電話のロール プレイング。	岡田亜 子	山内愛樹
31	令和2年8月18 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	趣味	生徒それぞれが自分の趣味 について発表。	横江美 智子	具志堅タミー
32	令和2年8月18 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	「誘う」「断 る」ための表 現	「くらい・ぐらい・ほど」を 使った会話。	岡田亜 子	山内愛樹
33	令和2年8月25 日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	趣味	生徒それぞれが自分の趣味 について発表。	横江美 智子	具志堅タミー

34	令和2年8月25日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	日本料理、飲食店での会話	「～抜きでお願いします」等、飲食店での会話をロールプレイング。	岡田亜子	山内愛樹
35	令和2年8月28日(金) 17:00～20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
36	令和2年8月29日(土) 9:00～12:00/18:00～20:00	5	オンライン	9		復習	横江美智子	
37	令和2年9月1日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	仕事	仕事に関する語彙の確認、発表。	横江美智子	具志堅タミー
38	令和2年9月1日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	勘違い	勘違いをして約束を守れなかったときの言い訳。	岡田亜子	山内愛樹
39	令和2年9月8日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	18	仕事	仕事に関する語彙の確認、発表。	横江美智子	具志堅タミー
40	令和2年9月8日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	14	日本料理、飲食店での会話	「～抜きでお願いします」等、飲食店での会話をロールプレイング。	岡田亜子	山内愛樹
41	令和2年9月15日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	作文、日常生活で使う言葉	作文、日常生活で使う言葉の確認。	横江美智子	具志堅タミー
42	令和2年9月15日(火) 18:30～20:30	2	オンライン		旅行	「～こそ・さえ」を使った表現。	岡田亜子	山内愛樹
43	令和2年9月22日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	作文、日常生活で使う言葉	作文、日常生活で使う言葉の確認。	横江美智子	具志堅タミー
44	令和2年9月22日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	て形、たい形	銀行、ATMについて。	岡田亜子	山内愛樹
45	令和2年9月25日(金) 17:00～20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
46	令和2年9月26日(土) 9:30～12:00/18:00～20:00	4.5	オンライン	9		復習	横江美智子	
47	令和2年9月29日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	会話「～をします」「洋服を買います」	イラスト、語彙を見せた上で、「～をします」の文作り。さまざまな服の名称と「着る・はく・かぶる・する」を組み合わせた文作り。	横江美智子	具志堅タミー
48	令和2年9月29日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	「～こそ・さえ」	「～こそ・さえ」に関する練習問題演習。	岡田亜子	山内愛樹

49	令和2年10月6日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	会話「～をします」「洋服を買います」	イラスト、語彙を見せた上で、「～をします」の文作り。さまざまな服の名称と「着る・はく・かぶる・する」を組み合わせた文作り。	横江美智子	具志堅タミー
50	令和2年10月6日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	て形、たい形	銀行、ATMについて。	岡田亜子	山内愛樹
51	令和2年10月13日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	18	敬語、支払方法、ニュース	店員がよく使う敬語の意味の説明。支払方法の練習。ニュースでよく聞く言葉の説明。	横江美智子	具志堅タミー
52	令和2年10月13日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	自動詞、他動詞	「増える」「増やす」など、自動詞と他動詞の違いの確認。	岡田亜子	山内愛樹
53	令和2年10月20日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	飲食店	飲食店での注文のロールプレイング。	横江美智子	具志堅タミー
54	令和2年10月20日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	動詞の活用(ない形)	規則や禁止事項が理解できるようになる義務や必要性があることを述べるときに使われる表現。	岡田亜子	山内愛樹
55	令和2年10月27日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	敬語、支払方法、ニュース	店員がよく使う敬語の意味の説明。支払方法の練習。ニュースでよく聞く言葉の説明。	横江美智子	具志堅タミー
56	令和2年10月27日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	親しい人との関わりで用いる動詞	「～の世話をする」「～の管理をお願いする」「～を預ける」等の語彙の導入。	岡田亜子	山内愛樹
57	令和2年10月30日(金) 17:00~20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
58	令和2年10月31日(土) 9:00~12:00/18:00~20:00	5	オンライン	9		復習	横江美智子	
59	令和2年11月3日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	お金の支払い	お金を払う際のトラブル等、語彙の確認。	横江美智子	具志堅タミー
60	令和2年11月3日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	動詞の活用(ない形)	規則や禁止事項が理解できるようになる義務や必要性があることを述べるときに使われる表現。	岡田亜子	山内愛樹
61	令和2年11月10日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	病院	病院の予約電話のロールプレイング。	横江美智子	具志堅タミー
62	令和2年11月10日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	14	あまり親しくない人との関わりでも用いる動詞	あまり親しくない人に頼み事をする際の言葉遣い。	岡田亜子	山内愛樹
63	令和2年11月17日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	17	誘いの断り方	相手に不愉快な思いをさせない誘いの断り方。	横江美智子	具志堅タミー

64	令和2年11月17日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	あげる、もらう、くれる、やる	物の授受について学ぶ。恩恵を与えたり受けたりしたことを表現できる。	岡田亜子	山内愛樹
65	令和2年11月24日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	病院	病院の予約電話のロールプレイング。	横江美智子	具志堅タミー
66	令和2年11月24日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	同音異義語、似た意味の言葉	物の授受について学ぶ。恩恵を与えたり受けたりしたことを表現できる。	岡田亜子	山内愛樹
67	令和2年11月25日(水) 19:00～20:30	1	オンライン	32	私の日本語学習法について	日本語学習のコツやアドバイスを生徒たちに伝える機会とした。	具志堅タミー	
68	令和2年11月25日(水) 19:00～20:30	1	オンライン	32	私の日本語学習法について	日本語学習のコツやアドバイスを生徒たちに伝える機会とした。	山内愛樹	
69	令和2年11月27日(金) 17:00～21:00	4	オンライン	8		復習	横江美智子	
70	令和2年11月28日(土) 9:30～12:00/18:00～21:00	4.5	オンライン	9		復習	横江美智子	
71	令和2年12月1日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	「誘う」「断る」ための表現	「くらい・ぐらい・ほど」を使った会話。	横江美智子	具志堅タミー
72	令和2年12月1日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	14	あげる、もらう、くれる、やる	物の授受について学ぶ。恩恵を与えたり受けたりしたことを表現できる。	岡田亜子	山内愛樹
73	令和2年12月8日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	日本料理、飲食店での会話	「～抜きでお願いします」等、飲食店での会話をロールプレイング。	横江美智子	具志堅タミー
74	令和2年12月8日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	苦情	隣がうるさいときの苦情の言い方。	岡田亜子	山内愛樹
75	令和2年12月15日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	勘違い	勘違いをして約束を守れなかったときの言い訳。	横江美智子	具志堅タミー
76	令和2年12月15日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	今までの総復習	選択問題や助詞、動詞での穴埋め問題。	岡田亜子	山内愛樹
77	令和2年12月22日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	日本料理、飲食店での会話	「～抜きでお願いします」等、飲食店での会話をロールプレイング。	横江美智子、安富祖樹里、渡部佳子	具志堅タミー
78	令和2年12月22日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	今までの総復習	選択問題や助詞、動詞での穴埋め問題。	岡田亜子	山内愛樹

79	令和2年12月25日(金) 17:00～20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
80	令和2年12月26日(土) 9:30～12:00/18:00～20:00	4.5	オンライン	9		復習	横江美智子	
81	令和3年1月12日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	18	旅行	「～こそ・さえ」を使った表現。	横江美智子	具志堅タミー
82	令和3年1月12日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	過去の経験、時々起きることを表す文型	「～ことがあります」等、過去の経験を表す文型の見直し。	岡田亜子	山内愛樹
83	令和3年1月19日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	17	て形、たい形	銀行、ATMについて。	横江美智子	具志堅タミー
84	令和3年1月19日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	14	過去の経験、時々起きることを表す文型	「～ことがあります」等、過去の経験を表す文型の見直し。	岡田亜子	山内愛樹
85	令和3年1月26日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	「～こそ・さえ」	「～こそ・さえ」に関する練習問題演習。	横江美智子	具志堅タミー
86	令和3年1月26日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	14	「～たことがある」「～ことになる」	「～たことがある」「～ことになる」を使った会話の練習。	岡田亜子	山内愛樹
87	令和3年1月29日(金) 17:00～20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
88	令和3年1月30日(土) 9:00～12:00/18:00～20:00	5	オンライン	10		復習	横江美智子	
89	令和3年2月2日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	て形、たい形	銀行、ATMについて。	横江美智子	具志堅タミー
90	令和3年2月2日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	14	「～たことがある」「～ことになる」	「～たことがある」「～ことになる」を使った会話の練習。	岡田亜子	山内愛樹
91	令和3年2月9日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	15	自動詞、他動詞	「増える」「増やす」など、自動詞と他動詞の違いの確認。	横江美智子	具志堅タミー
92	令和3年2月9日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	13	「～たことがある」の文作り、動詞の活用	「～たことがある」の文作り。動詞の活用の確認。	岡田亜子	山内愛樹
93	令和3年2月16日(火) 18:30～20:30	2	オンライン	16	動詞の活用(ない形)	規則や禁止事項が理解できるようになる義務や必要性があることを述べるときに使われる表現。	横江美智子	具志堅タミー

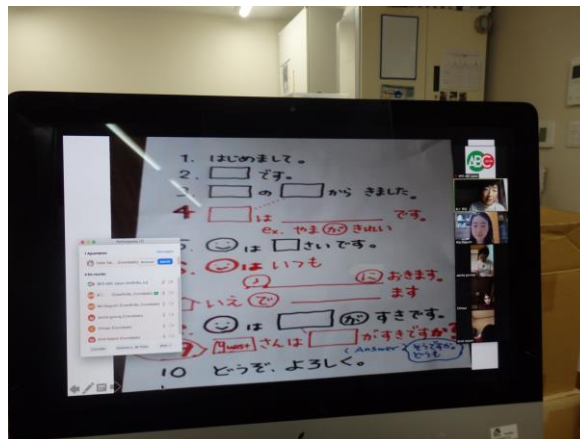
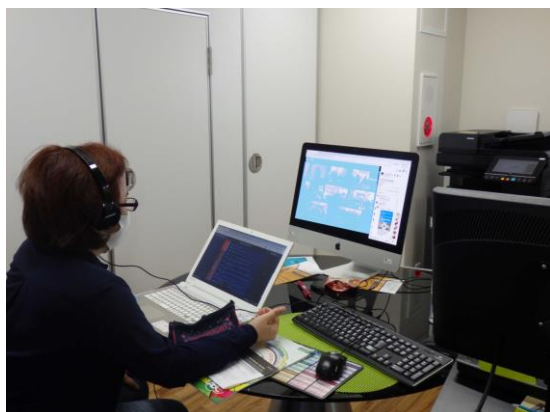
94	令和3年2月16日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	「～ことになる」「かどうか」「ようになる」	適切な動詞の活用で文を完成させる問題演習。	岡田亜子	山内愛樹
95	令和3年2月23日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	親しい人との関わりで用いる動詞	「～の世話をする」「～の管理をお願いする」「～を預ける」等の語彙の導入。	横江美智子	具志堅タミー
96	令和3年2月23日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	13	「～ことになる」「かどうか」「ようになる」	適切な動詞の活用で文を完成させる問題演習。	岡田亜子	山内愛樹
97	令和3年2月26日(金) 17:00~20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
98	令和3年2月27日(土) 9:00~12:00/18:00~20:00	5	オンライン	9		復習	横江美智子	
99	令和3年3月2日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15	動詞の活用(ない形)	規則や禁止事項が理解できるようになる義務や必要性があることを述べるときに使われる表現。	横江美智子	具志堅タミー
100	令和3年3月2日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	14	「に・が・は・を」	「に・が・は・を」を基礎から確認。	岡田亜子	山内愛樹
101	令和3年3月9日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	16	あまり親しくない人との関わりでも用いる動詞	あまり親しくない人に頼み事をする際の言葉遣い。	横江美智子	具志堅タミー
102	令和3年3月9日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	14	「に・が・は・を」	「に・が・は・を」を基礎から確認。	岡田亜子	山内愛樹
103	令和3年3月12日(金) 17:00~20:00	3	オンライン	6		復習	横江美智子	
104	令和3年3月13日(土) 18:30~21:00	2.5	オンライン	5		復習	横江美智子	
105	令和3年3月16日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	15		作文「この1年を振り返って」の発表。	横江美智子	具志堅タミー
106	令和3年3月16日(火) 18:30~20:30	2	オンライン	13		作文「この1年を振り返って」の発表。	岡田亜子	山内愛樹
計		252		1506				

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 令和 2年 5月 26日】

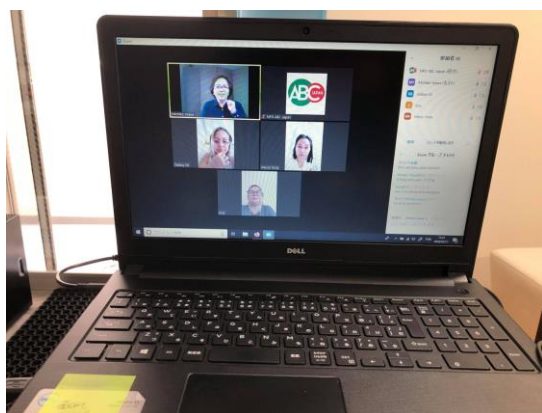
ひらがな語彙の長音、促音、拗音の確認、挨拶や自己紹介の練習を行った。講師がテキストやホワイトボード、そのほか資料を使いながら、説明を行った。自己紹介では、参加者一人ひとりが自分のこと、生活のことを言葉にして伝えられるようにサポートしながら、発言できる機会を多く持った。会話を通して学習ができるように、講師と参加者、参加者同士など、様々な組み合わせで実際に声に出し、会話をしながら練習した。また、ほかの参加者の言葉や質問なども共有しながら、理解を深めていけるように行った。



○取組事例②

【第7回 令和 2年 6月 2日】

「これは、それは」の使い分けについて授業を行った。講師が、図解を用いながら文章と意味の説明を行った。その後、日常生活の中で使う言葉や、これまでに習った名詞、実際にその場の身近にあるものなどを用いて、学習者との会話を繰り返し行った。質問をする人、答える人のそれぞれの役割を行えるようにした。また、その都度、発音の確認を行いながら練習した。それぞれの参加者の理解に応じて、補足説明を行い、丁寧に進めていった。参加者の中には、言葉がなかなか出ない時もあったが、講師のサポートを受けながら、言いたい内容の言葉を確認したり、思い出したりしながらやりとりをし、言った後は嬉しそうな表情になり、一つずつ自信に繋がっている様子だった。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者は滞日期間が2年～19年、年齢は22歳～66歳、職業は工場、マッサージ師、介護、主婦、電気工事士等、多岐に渡っていた。学習経験も様々であった。「区役所や銀行で適切な言葉が使えない」、「お客さんへの接し方がわからない」、「仕事で使う言葉が覚えられない」、「日本語があまり話せないため、仕事をさせてもらえない。」等、実際に生活や仕事で困る場面に直面していた。この取り組みを通して、「外出できないので、オンライン教室を受けられてよかった」、「実際に日常生活で使える日本語を学べた」、「教室で学んだ日本語を職場で使ったら通じた」、「自分の住所を全部漢字で書けた」、「病院に電話をして予約できた。」等、当事業のオンラインサポート付き日本語教室で学んだ日本語を活用し、生活や地域社会において、受講者の生活の質の向上に繋がっている。

(3) 今後の改善点について

授業内でできるだけ実際にやりとりを行い、日本語での会話に対する不安やストレスをあまり感じずに、日本での生活に活用できるように今後も実践的な日本語指導を行っていききたい。また、当団体が連携して活動している地域NPO法人の理事長や保育園園長等を講師に招く計画であったが、今回は緊急時のため行うことができなかった。今後もしばらくオンラインが予想される中で、どのように連携しながら実施していけるか検討をしていきたい。

＜取組2＞【実施期間:令和2年12月13日】											
取組の名称		日本語教育シンポジウム～地域社会での取り組みと多文化共生社会									
取組の目標		シンポジウムを開催して、本事業での日本語教室の取組の成果について発表し、地域住民に定住外国人への日本語教育の重要性についての理解を深めてもらう。 日本語教育関係者や行政、学校教員、外国人支援団体、国際交流ラウンジ、外国人住民、地域住民が一堂に会することで、地域における多文化共生社会の実現の推進について考える。									
取組の内容		本事業の取組1で実施した「オンラインサポート付きの日本語教室」の実践報告を行い、学習者の実情に合わせた効果的な日本語教育のカリキュラムや指導法を公開し、学習者自身の感想や言葉も伝え、持続可能な地域における日本語教育を考察した。 外国人に対する日本語教育の専門家や学校現場で外国につながる家族と日々向き合っている教員等を講師に招き、地域の日本語教育のあり方について考えた。 多文化共生実現のためには、外国人住民の日本語学習だけでなく、受入側の体制整備も不可欠であるため、こうした機会に日本語教育の意義について地域住民に理解してもらうことで日本語学習支援の裾野を広げ、日本語教育への理解促進を図った。									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		外国人市民をサポートしている関係団体や、鶴見国際交流ラウンジ、区内日本語ボランティア教室、学習支援教室等の機関にも参加を呼びかける。また、区役所の担当者等の協力も得て、多くの地域住民にもシンポジウム開催を周知する。									
取組による日本語能力の向上											
参加対象者		地域住民、学校、行政、地域の日本語教室、ボランティア教室、支援団体、関係機関等					参加者数 (内 外国人数)		72人(16人)		
広報及び募集方法		SNSを利用した情報提供。当団体ホームページへ広告を掲載した。									
開催時間数		総時間 2時間(空白地域時間)					内訳 2時間 × 1回				
主な連携・協働先		鶴見区、鶴見国際交流ラウンジ、鶴見区民文化センターサルビアホール									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	2	1	10					1	2	56	72
※該当する場合のみ		ボリビア(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年12月13日(日) 13:00～15:00	2	オンライン	2	地域社会での取り組みと多文化共生社会	『ABCジャパン＆日本語教室の紹介』 『学習者の生活スタイルに合わせたオンライン日本語教室報告』 『長後小学校国際教室の実践報告』 『さまざまな背景をもつ人々がともに自分らしく生きられる社会をめざして』		嶽肩志江・齋藤智慶・横江美智子・安富祖樹里			
計		2		2							

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年12月13日】

横浜市及び鶴見区での地域日本語教育の状況や目指す姿の共有を行った。外国籍と外国につながる児童数、国際教室担当教員配置状況、ABCジャパンの取組から各機関・学校、地域・社会との繋がり必要性とその事例紹介。地域で暮らす子どもの置かれている様々な状況と、成長(言語・認知の発達、アイデンティティ形成)と社会がどのように関わり、学習や学校生活に影響するのかの講演。小学校の国際教室での学習支援の実践報告として、子どもへの支援、保護者への支援と児童の自尊感情を高めるための取組事例発表を行い、一人ひとりが自分らしく生きられる社会に必要なことは何かを検討した。

シンポジウムの最後に、参加者一人ひとりに「私にできること」を考えてもらった。それぞれに用紙に書いたものを提示してもらい共有する時間を設けた。質疑応答も、多くのやりとりがあり大変活発だった。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートでは「横浜市や鶴見区の現状、日本語教育と教室の状況を知ることができた。」「それぞれの場所で、様々な取り組みをしていることを知り、貴重な機会となった。」「(参加者が自身の)地域との比較、検討の機会になった。」「子どものダブルリミテッドの問題を感じていたので勉強になった。」「幅広い話を伺うことができて有益だった。」等、取組や日本語教育の重要性を伝え、理解を深めてもらうことができた。「今後も実施してほしい。」「このような話し合いをもっと大勢の方に参加してほしい。」「国際教室での学習支援や、ABCジャパンの放課後学習支援事業についてもっと知りたい。」等の感想が寄せられ、参加者の方の意識の前向きな変化や、「支援に結びついていない人たちはどこにいるのか」と強く関心を持たれた参加者もいた。

(3) 今後の改善点について

今回は感染症対策として、オンラインでの開催となった。他の開催地域だけでなく、他県からの参加もあった。今後もオンラインの利点を活かしながら、実施していく。
場面によって、雑音が入り聞き取りづらかったとの声もあり、インターネット環境や音響設備について、再度確認をして、より安定した開催に向けて準備を行う。

＜取組3＞【実施期間:令和 2年 10月 8日～令和 3年 2月 18日】												
取組の名称		地域日本語教室における指導者・コーディネーターのための研修										
取組の目標		今後も住外国人はますます増えると考えられることから、地域の外国人が自立した生活を送れるような日本語力を得るための教室展開を支える講師やボランティアの指導力をアップさせていく必要がある。また、外国人学習者への対応の仕方、学習のモチベーションを持続させるための方法なども習得し、学習者が教室で学んだことを社会の中でどう活かせるかについて考察していく。 また、教室以外でも外国人市民と日々触れ合う機会のあるコディネーターについても、学習者のためのより良い教室運営を学び、多文化共生社会の実現に向けた力をつけていく。										
取組の内容		定住外国人への日本語教育を長年行ってきた日本語指導者が実施する研修により、学習者にとってよりわかりやすく効果的な指導法を学び、実践につなげていく。さらに、外国人移住者に対する心理社会的サポートの専門家や長年地域の定住外国人の生活支援、日本語教育等に携わってきた団体理事による体験に基づいた講義を通して、外国人が置かれている状況を学び、学習者がより良い環境で学ぶことができるような日本語教育のあり方について学んだ。 ①移住とは何か？家族一人ひとりにおける、移住に伴う心理社会的影響について(全3回) ②外国につながる子どもの家庭環境を含む、心理社会的背景及び、学習への影響について考える(全3回) ③定住外国人の日本語教育～「地域日本語教育アドバイザー」としての経験から(全1回) ④多文化共生時代における生活者のための実践的日本語指導について(全1回)										
	空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		普段から当団体での活動に参加・連携してきた専門家を研修会講師として招くことで、今後の日本語教育運営・展開において重要な役割を担ってもらえるような体制づくりに役立てる。										
取組による日本語能力の向上												
参加対象者		日本語指導者、補助者、コーディネーター、社会人・学生ボランティア等					参加者数 (内 外国人数)		11人(4人)			
広報及び募集方法		本団体の事業・活動に関わっている講師、スタッフ、ボランティア等すべてに周知し、参加を募る										
開催時間数		総時間 24 時間(空白地域時間)					内訳 6時間 × 4回					
主な連携・協働先		CRIATIVOS-保健プロジェクト、社会福祉法人青丘社										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計	
	1		1						1	7	10	
※該当する場合のみ		ボリビア(1人)										

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年10月8日(木) 10:00～16:00	6	ABCジャパン	8	移住に伴う心理的危機	移住過程から生じる心理危機について	岩木エリーザ	岡田・渡部・横江・奥山 加藤・鈴木・安富祖・渡辺
2	令和2年10月15日(木) 10:00～16:00	6	ABCジャパン	8	移住に伴う喪失感	移住過程における様々喪失から生じる心理的ストレスについて	岩木エリーザ	岡田・渡部・横江・奥山 加藤・鈴木・安富祖・渡辺
3	令和2年10月22日(木) 10:00～16:00	6	ABCジャパン	4	移住に伴う心理的危機(継続)	移住過程における様々喪失から生じる心理的ストレスについて:支援の実践について	岩木エリーザ	長谷川・小峰・安富祖・渡辺
4	令和2年10月29日(木) 10:00～16:00	6	ABCジャパン	4	移住に伴う心理的危機(継続)	移住過程における様々喪失から生じる心理的ストレスについて:支援の実践について	岩木エリーザ	長谷川・小峰・安富祖・渡辺
5	令和3年2月18日(木) 10:00～12:00	2	オンライン	9	地域日本語教育について	大学での日本語教師養成講座と地域日本語教育における取組について	田中 里奈	岡田・渡部・横江・奥山 服部・藤浪・和泉 安富祖・渡辺
計		26		33				

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 令和2年10月15日】

私たちが関わっている外国に繋がる子どもたちとその家族の方たちが、移住の過程においてどのような体験をし、ストレスを感じているのか、またそれに対する支援の実践についての講義を行った。その過程における身体と心の関係や、子どものアイデンティティ形成に及ぼす影響、家族内における関係の変化等を知ることを通して、改めて、必要な支援や対応する際に心がけること、向き合い方などを考える機会となった。一人ひとりが対応してきたケースがあり、意見交換を行いながら現状を見つめると共に、今後の取り組みを考える貴重な機会となった。



○取組事例②

【第3回 令和3年2月18日】

地域との連携を視野に大学における日本語教員養成課程において、どのような人材を育成するのかという課題とともに、実践の報告について講義を行った。日本語教員養成講座の内容は、外国につながる人たちの接点となり、日本語教師以外の職業でも活かすことができる。また、言語だけでなく文化や歴史についても学ぶため、自身の行動や考えの変容の機会になる。そのほか、教師の質について、言語と文化、感情のつながりや、今後当団体とどのように教育的交流を発展していけるのか等、具体的な事例を知りながら、活発な意見交換がなされた。



(2) 目標の達成状況・成果

参加者からのアンケートより、それぞれの研修を通して「外国につながる子どもたちとその保護者、また、日ごろ接する学習者や相手の理解に繋がると同時に、自分たちの支援、指導について振り返るよい機会になった」と声が挙がった。分野もそれぞれであるが、「共通認識を持ったり、共有しながら、相手に寄り添っていきたい」という積極的な意見が出た。外国につながる子どもたちや保護者の背景や実際の理解とともに、対応する際の心構えや、今後の活動に対する意欲につながった。

(3) 今後の改善点について

特になし

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

その多くが非正規雇用で長時間労働に従事し、日本語学習の希望を持ちながら教室に通って勉強する時間が取れない外国人市民のために、対面式の授業だけでなく、学習者の生活スタイルに合わせて学習を続けられるオンラインサポート付きの日本語教室を実施する。授業では外国人市民が必要とし、普段から関心を持っているテーマを取り上げ、地域で活動する方々を講師として招き、外国人が安心して生活し、地域住民としての意識を高め、積極的に社会参画していけるようにする。地域住民を対象としたシンポジウムを開催し、地域に生活する外国人市民の現状と抱えている困難さ、日本語習得の大切さについて発信し、多文化共生社会に向けた取り組みについての理解を促進する。日本語講師や補助者、コーディネーターが、外国人市民が地域で自立して生活していけるように日本語指導や生活支援の面でより良いサポートを行うために、各分野の専門家を講師に招き、実践的な研修を行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室では、外国人が安心して生活し、地域住民としての意識を高め、自分を表現したり、コミュニケーションを図るための日本語力を身につけ、積極的な社会参画につながる内容で教室を開講することができた。日本語教育シンポジウムでは、地域に生活し、学ぶ子どもたちや、外国人市民の現状と抱えている困難さ、日本語習得の大切さについて発信し、多文化共生社会に向けた取り組みについての理解を促進した。日本語講師や補助者、コーディネーターが、外国人市民が地域で自立して生活していけるように日本語指導や生活支援の面でより良いサポートを行うための指導力向上、そして、地域の日本教育のあり方について考えたことで、よりよい教室運営の体制強化と、学習者にとってよりよく、わかりやすい学習の環境向上に繋がった。これらを通して、地域住民と外国人市民の相互理解、多文化共生環境づくりに向けて活動をすることができた。

(3) 地域の関係者との連携による効果

これまで地域の国際交流ラウンジや自治体、学校、他の外国人支援団体等と情報交換・意見交換を行いながら、地域で求められている外国人市民への支援や日本語教室のあり方について把握、検討をしてきた。コロナ禍で、さらに市民の労働、生活、教育に変化があり、これまでにないニーズも聞かれるようになり、柔軟に対応をしてきた。今後も、連携を取りながら、外国人市民のニーズにあった、役立つ教室づくりや、外国人市民の社会参画を促していけるように実施していきたい。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教室と、日本語教育シンポジウムについて、より多くの市民に情報が届けられるように、オンラインにて当団体HPや、SNSを活用して、周知・広報に努めた。それにより鶴見区近隣はもちろんだが、遠方からの参加も多かった。また、実施内容や成果等についてSNS等にて報告したほか、常に連携を取っているブラジル総領事館や外国人コミュニティ、地域その他支援団体等に対しても、その実施内容や成果、課題等について報告した。

(5) 改善点、今後の課題について

これまで対面で、教室や講座、シンポジウムなど実施してきたが、今回の実施事業は新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの活動となった。これにより、様々な場所からの参加が可能となった。また、受講者も生活の中で時間のやりくりがしやすくなり、積極的に参加する姿もあったことから、活動地域である横浜市鶴見区だけでなく、広範囲の外国人市民に対して安心して暮らしていけるような基盤づくりを続けたい。また、対面の利点も活かしながら、今後の状況に応じて柔軟に対応していけるように実施方法を検討していく。そして、地域住民への理解の促進を今後も行いながら、誰もが暮らしやすい社会に向けて情報発信にも力を入れながら活動を行っていききたい。

(6) その他参考資料

提出する作成したチラシ

- ・日本語教育シンポジウム 地域社会での取り組みと多文化共生社会
- ・地域日本語教室における指導者・コーディネーターのための研修
- ・オンライン日本語教室